

野崎氏等の發した 聲明書追求

緊張した町會の質問戦 傍聴人溢る

昨日の平町會は劈頭電燈値下問題に關聯せる醜聞に關し各町議が決して巷間噂するが如き事實のなき旨を聲明し次いで千葉彦治氏が此程野崎滿藏氏外五名の發した

水道擴張 反對聲明

書に對し眞つ向上段から難詰して是れを政治道徳に反せる行動也と斷じ議場を頗る緊張せしめ俄然町會は同聲明書を中心として質問戦が開始さるゝに至り野崎、馬目(雅)兩町議は「時節柄町經濟の緊縮を基礎として三萬圓内外を以つてせる唧筒揚水を

最善の策 と心得る

「旨を力説し是れに對し擴張案支持可議側より町當局に對する質問を浴びた伏見町長は

擴張工專の豫算が杜撰であるといふが同案は昨年十一月五日の町會に上提し満一ヶ月の間各町議が慎重審議を重ね翌十二月五日満場一致を以つて可決された案であるから今日に至つて杜撰であるとのそしりは聞き免し難いのである、成程豫算編成の當時に於ける物價と今日の物價は多少の變動のあるは當然であるが總べて監督官廳の指揮命令に依つて上事を進行せしむるものであるから低落せ

の平均使用水量及び片倉製糸會社の使用量はどの位であるか
其他二三の點を尋ねる處あり遠藤助役番外席に起つて水道擴張工事に補助せざる方針とは何かの訛傳あつて其の如き事實はないと上水道の補助に關する沿革を説き内務省の衛生課長土木課長等の會議に依る各縣への通牒を讀む、次に香野水道課長は
現在の水道装置にては充分なる水を供給する事が不能の状態に陥つて居る夫れはコンクリート管等の漏水に依つて所用の水量を送水する事が出来ず且一方人口増加と共に需要水量が益々増加するからである、従つて一方に於て多量の水を使用する場合には鎌田町等は水不足を告ぐるに至るのである、また唧筒用水の設備費は三萬圓内外として此の外に經常費として動力代九千圓人件費三千五百圓等を要するものと思はれる、また一人一日當りの使用水量は四個五分、また片倉製糸の最大使用量は二千二百石である
と答へ野崎町議との間に使用水量に關して質問答あり遠藤助役から馬目(雅)町議外五名の水道工專緊縮の建議案報告あり萩原義雄氏は擴張案可決の際野崎氏も此の案に賛成の意志を表明したと聞いて居るが果して事實であるかどうかと尋ね香野課長が
當時野崎氏は縣會の爲め在福中であつたので諒解を得べく福島の旅舎に電話を掛けた處異議がないからよろしくとの事であつた

と答へた處野崎氏は「そんな電話は聞いた覚えがない」と空嘯く、井上町議議席から「聞かぬ事にして置いた方が貴方のお爲めです」と一寸皮肉を飛ばしたので滿場哄笑、議場には既に電燈が灯つたが議事室の窓に迄鈴なりにブラ下つた
傍聴者は 未だ去らず依然として聲明書を中心とせる質問戦を繼續、馬目(武)齊藤、大森、其他の諸氏交々起も質問の矢面野崎氏が
平町の水道が水不足を告げるものとは思はれない若し水不足を告げて居たとせば何故夏期に際して湯本へ水の應援をしたかと馬目(雅)氏と共に肉迫すれば吉田寅之輔氏が土木委員の立場から當時の経緯に關し水不足の湯本慘狀を説き平町は決して充分な水は持つて居なかつたが此急迫せる湯本を見殺しにする事は出来なかつたとて
貧乏人が一人の哀れな乞食に一錢の金を恵んだからとて彼れは貧乏に非らずとは申せまい
と功妙な比喻を交いて野崎氏一派に當る、青沼鋒太郎氏は
野崎氏の談に依れば起債促進委員が認可請願の爲め上京せる際若し認可が不許可となつたならば設計を變更して約十萬圓で應急工事を施す旨町の理事者が言明したとの事だが實否如何
を質し伏見町長はその如き協議の席には臨まなかつたと述べ香野課長は
不許可の際の善後策に就いては勿論種々の意見が

出た事を記憶するが十萬圓で應急工事を施す計劃がある等と云ふ事は絶対に云はない
と釋明し野崎氏は「イヤ十萬圓で出来ると云つた」と飽迄も主張するので萩原氏が其際その席上に居合した委員が果して左様な事を聞いたかどうかと尋ね關内庄一氏が立つて
私も居合した一人であるが十萬圓と云ふ様な金額は少しも耳にせず此の金額は今日が初耳である
と述べ緑川三郎氏は
擴張案を一口に卅七萬圓と云ふが其の實は遠藤助役の說明の如く起債金廿萬圓、國庫補助九萬圓、縣補助七萬二千圓の目論見で起債金は水運収入を充當するものとせば實際の町民負擔は僅か八千圓に過ぎないのであるから決して是れを膨大な負擔と申す事は出来ぬ
と唧筒揚水より優れる理由を述べ佐々木龍若氏の勸機に依つて討論打ち切りとなり午後六時十分休憩午後七時再會、追加豫算及び實行豫算を議了し花澤五五氏よりの
電燈値下 に關する建議案を可決し値下具體案作成の委員として馬目(武)馬目(雅)緑川、千葉、高橋吉田(五)花澤の七氏を擧げ午後八時半久し振りで大賑ひを呈した町會の幕が閉された

明日の天気
南東の風 小雨模様
午後北西の風漸次天候回復

五十一圓の運賃が 一躍一萬六千圓に

日本石油會社の大痛事 湯本驛に送つた鑛油

去る二十三日信越線柏崎から常磐線湯本驛に送られた日本石油株式會社の鑛油積貨切扱貨車一車十六噸扱内容二百九十四箱一萬六千七百一斤が二十七日着驛湯本で内容が鑛油でなく

危険品の 揮發油で

あることが發見され鐵道規則により原運賃の五十一圓といふ所危険品扱ひにしても五十九圓で済む所を品目相違の點から危険品一斤に

つき一圓の増運賃を加へ一萬六千七百二十六圓五十錢の増運賃を取られるといふ大痛事を生じた原因は目下仙鐵局で調査中であるが全然出荷の際の積みあやまりらしく運賃を胡麻化す意志は無かつたらしいことは日石社員があらわして、仙鐵局に出頭しての辨明によつて認められたが何しろ運賃が巨額に上るので仙鐵だけでコナス譯にはゆ

冠水後の 鎌入れ注意

郡農會から

目下鎌入期にある石城地方の水田中約七割の五千町歩は過般の暴風雨で全部冠水した、め乾燥その他の關係から鎌入れが自然遅れること、なり農家では思はざる被害に全く困惑して居るが石城郡農會では一步鎌入れをあやまれば米質を悪くし石城米の聲價を失墜せしめること、なる恐れがあるので

平町區長決定

昨日の平町會に伏見町長の推選に依り左記區長が決定した
第十一區長 瀨富彌、第十區長 叶田錦治、第十六區長 大島福太郎

社告

法學士 西丸政男

右本社記者トシテ入社候間此段社告仕候

常磐毎日新聞社

幼兒を轢く

豊間村地内で廿八日午後四時半頃平町五丁目自動車運轉手目黒政雄(三)が石城郡江名町より平方面へ向つて自動車運轉中石城郡豊間村字柳町に差掛つた際同町道路に遊戯中の中西ヨシ(三)を引倒し負傷せしめ平署で目下取調中